

第6次竹原市総合計画策定に向けたアンケート調査 結果概要

H29年度 企画政策課

1. 調査概要

(1) 調査の目的

第6次竹原市総合計画策定にあたっての基礎資料を得るため、市民の意向などを把握することです。

(2) 調査対象

18歳以上の竹原市民3,000人（無作為抽出）

※ 若年層の意見を回収するため、若年層の抽出率を高めて実施した。なお、集計結果は抽出率を基にウェイトバック集計を実施した。

(3) 調査日程

平成29年12月15日～回収締切：平成29年12月28日（平成30年1月18日分まで受付）

(4) アンケート回収状況

回収数： 924件 ※有効回収数914件 回収率： 30.61%

2. 結果概要

(1) 竹原市での暮らしの評価について

竹原市の住みやすさについて、「まあまあ住みやすい」が59.7%と最も多くなっており、「とても住みやすい」(14.0%) 合わせると7割以上の方が『住みやすい』と評価している。

竹原市について愛着を感じているかについて、「ある程度感じている」が57.7%と最も多く、「強く感じている」(16.5%)を合わせるとこちらも7割以上の方が『愛着を感じる』と評価している。

図 住みやすさについて

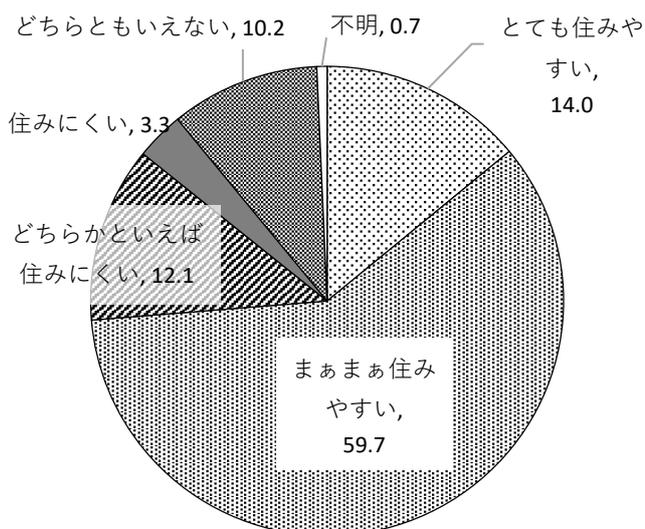
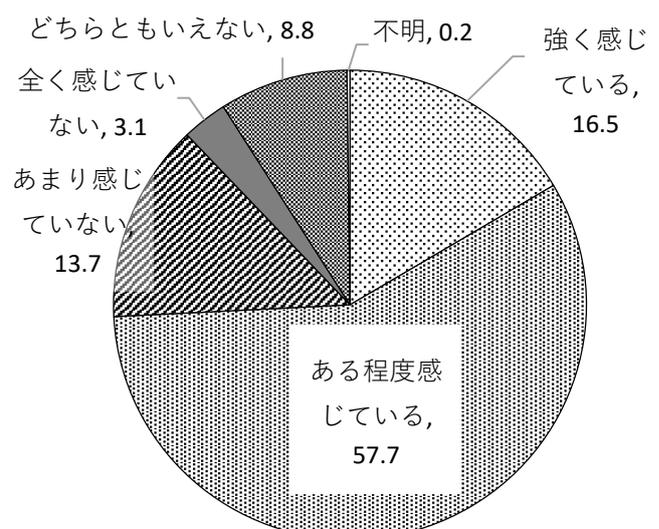


図 愛着度



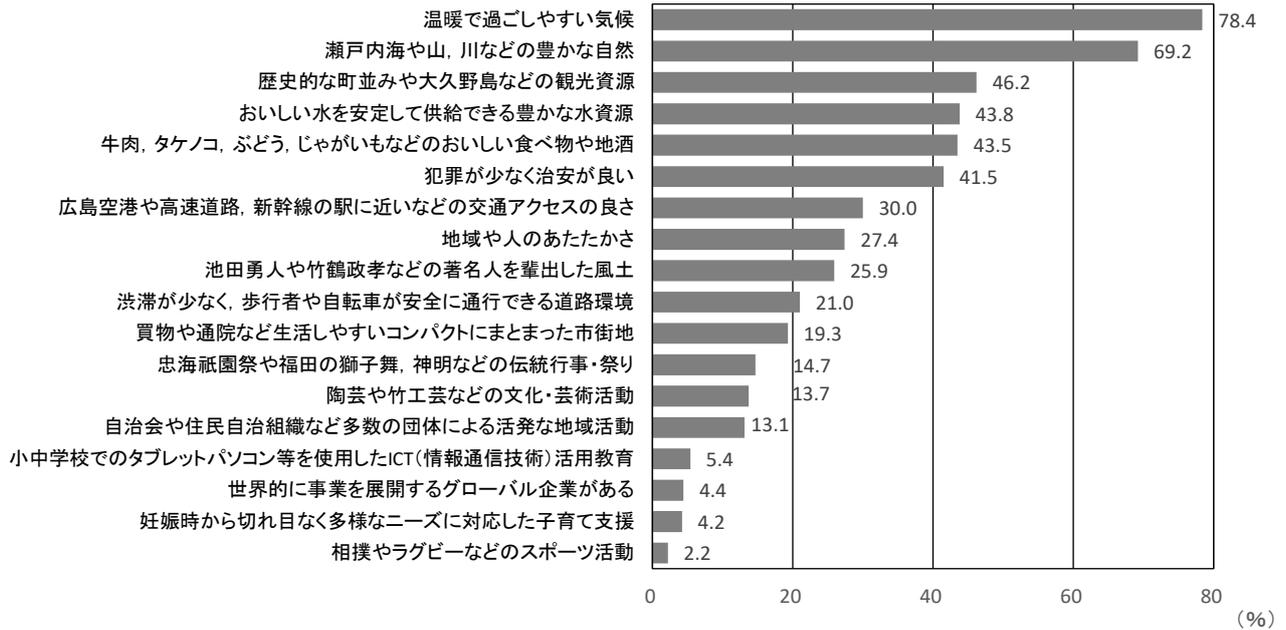
(2) 竹原市の強み

竹原市の強み（良いところ）について、「温暖で過ごしやすい気候」が78.4%で最も高く、次いで「瀬戸内海や山、川などの豊かな自然」が69.2%と高い割合となっている。

また「歴史的な町並みや大久野島などの観光資源」が46.2%、「おいしい水を安定して供給できる豊かな水資源」が43.9%「牛肉、タケノコ、ぶどう、じゃがいもなどおいしい食べ物や地酒」が43.5%、「犯罪が少なく治安が良い」が41.5%となっている。

図 竹原市の強み

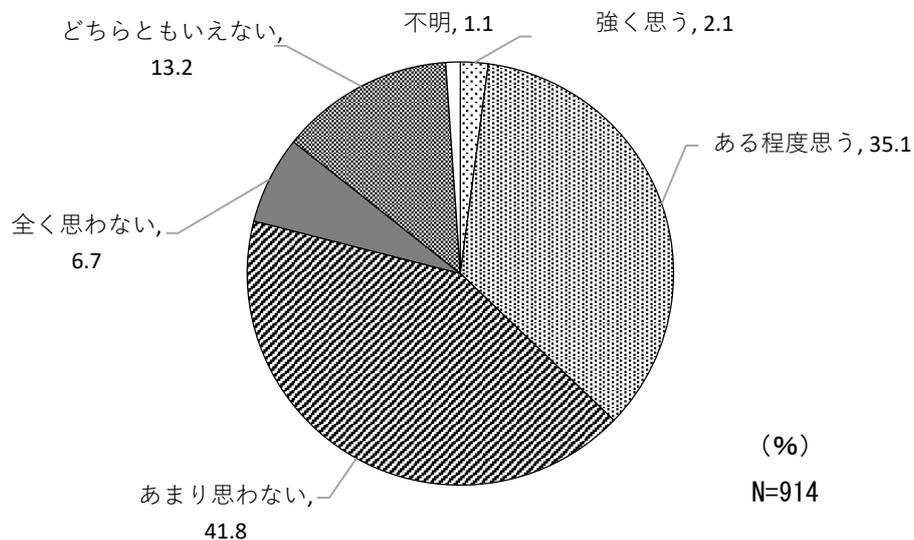
N=914



(3) 他地域から移り住む人にとって、竹原市は魅力があるか

竹原市は他地域から移り住む人にとって、魅力あるまちであるかについて、「あまり思わない」が41.8%と最も多くなっており、次いで「ある程度思う」が35.1%となっている。

図 魅力あるまち

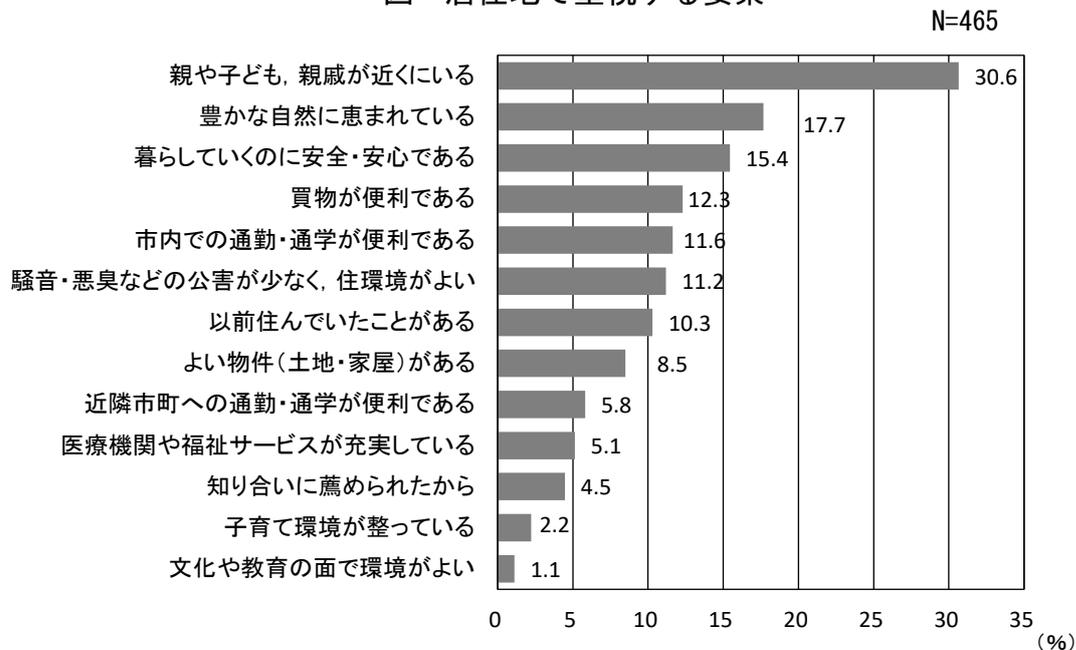


(5) 移住経験者の居住地で重視する要素

移住経験のある人に、竹原市に住む際に重視した点について、「親や子ども、親戚が近くにいる」が30.6%と最も高くなっている。

次いで「豊かな自然に恵まれている」が17.7%、「暮らしていくのに安全・安心である」が15.4%となっており、環境面を重視していることがみうけられる。

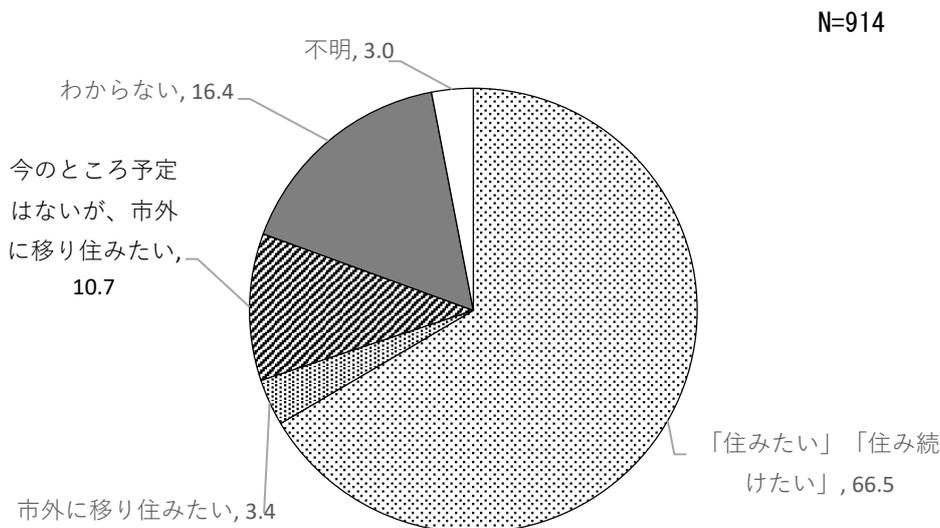
図 居住地で重視する要素



(6) 今後の居留意向

今後も竹原市に住み続けたいかについて、「住みたい」「住み続けたい」が66.5%と過半数となっている。

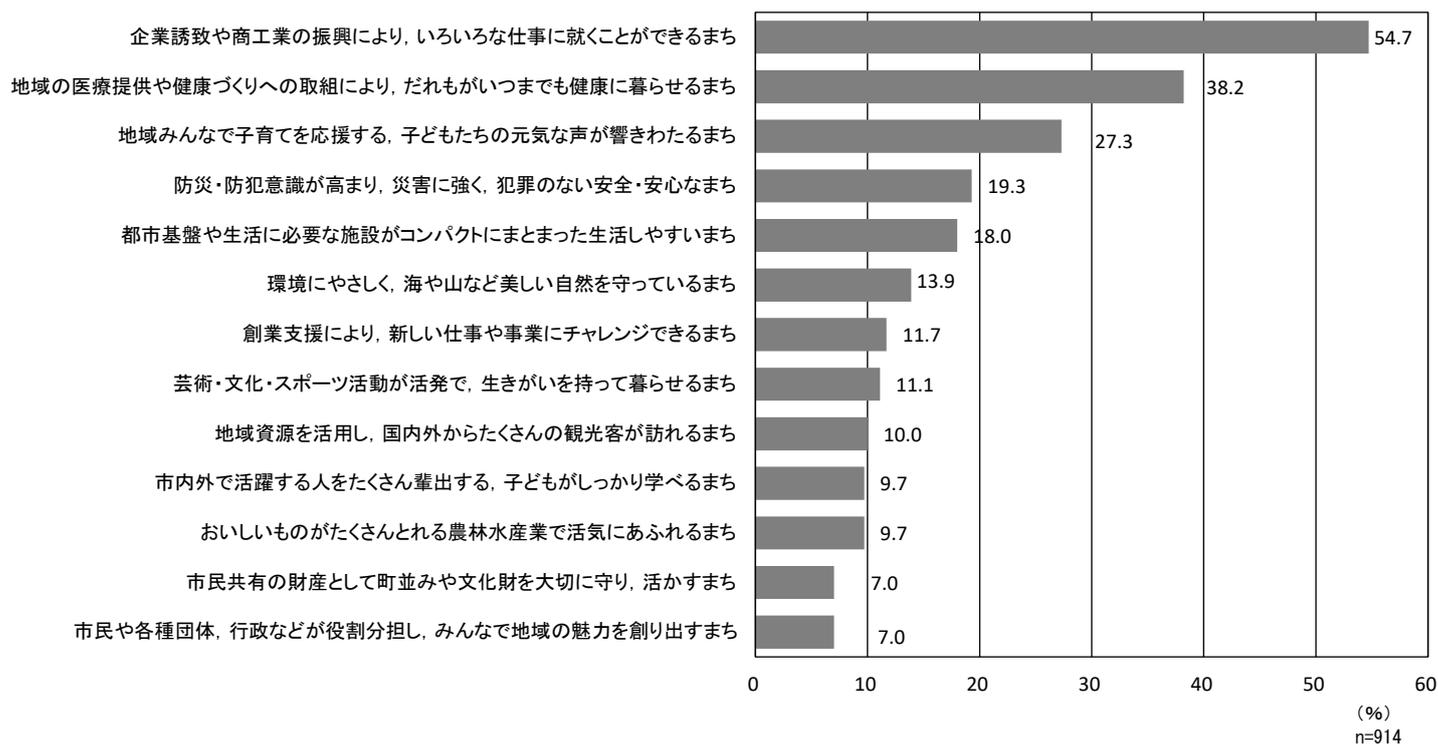
図 今後の居留意向



(7) “魅力あるまち” となるために必要なこと

市外の方が竹原市で住みたいと思えるような魅力あるまちとなるために必要なことについて、「企業誘致や商工業の振興により、いろいろな仕事に就くことができるまち」が54.7%と最も高く、次いで「地域の医療提供や健康づくりへの取組により、だれもがいつまでも健康に暮らせるまち」が38.2%となっている。

図 “魅力あるまち” となるために必要なこと



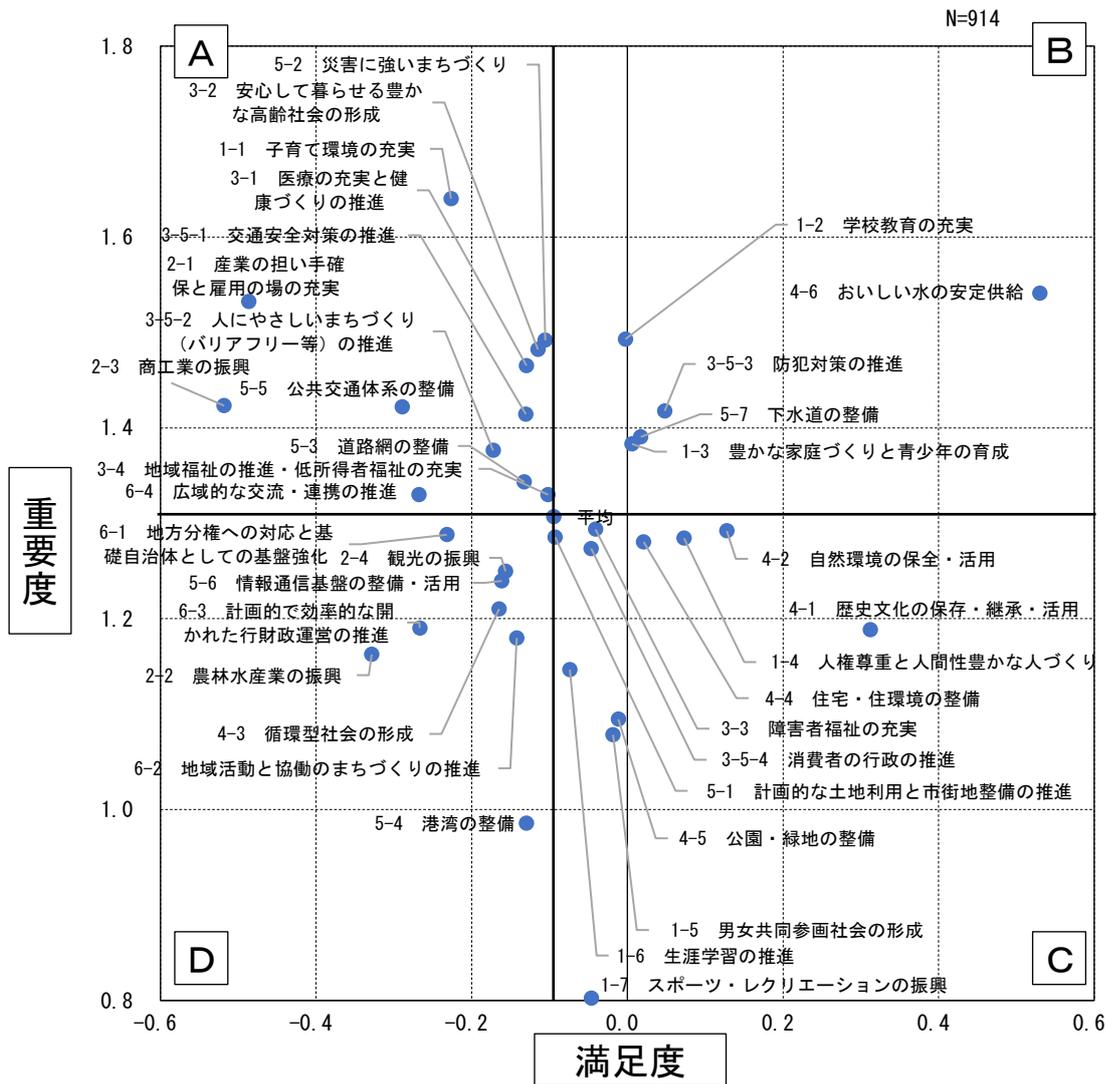
(8) 竹原市で取り組んでいる分野別の満足度・重要度について

各基本施策の重要度と満足度について回答結果を得点化し、横軸を満足度、縦軸を重要度とする図から満足度・重要度の相関図を作成した。

これにより、全施策の満足度・重要度の平均値で区切られた各領域により、各施策の竹原市における位置づけをみた。

各施策の位置づけをみると、A領域（重点化・見直し領域）12 施策、B領域（現状維持領域）5 施策、C領域（現状維持・見直し領域）11 施策、D領域（改善・見直し領域）8 施策となった。

図 満足度・重要度の相関図



(注) 図中の太線は重要度・満足度の全施策平均値（満足度：-0.094 重要度：1.307）を示す。

A領域では、「1-1 子育て環境の充実」の重要度が高いことや、「2-1 産業の担い手確保と雇用の場の充実」の重要度がやや高く、満足度がやや低いこと、「2-3 商工業の振興」の満足度が低いことなどが目立つ。

B領域では、他の領域に比べて含まれる基本施策数が少なくなっていることがわかる。また、「4-6 おいしい水の安定供給」の重要度・満足度が高いことや、「1-2 学校教育の充実」の重要度がやや高いことなどが目立つ。

C領域では、「4-1 歴史文化の保存・継承・活用」の満足度が高いことや、「1-7 スポーツ・レクリエーションの振興」の重要度が低いことなどが目立つ。

D領域では、「5-4 港湾の整備」の重要度が低いことや、「2-2 農林水産業の振興」や「6-3 計画的で効率的な開かれた行財政運営の推進」の満足度が低いことが目立つ。

表 各基本施策の領域の位置づけ

A領域（重点化・見直し領域）	B領域（現状維持領域）
1-1 子育て環境の充実 2-1 産業の担い手確保と雇用の場の充実 2-3 商工業の振興 3-1 医療の充実と健康づくりの推進 3-2 安心して暮らせる豊かな高齢社会の形成 3-4 地域福祉の推進・低所得者福祉の充実 3-5-1 交通安全対策の推進 3-5-2 人にやさしいまちづくり（バリアフリー等）の推進 5-2 災害に強いまちづくり 5-3 道路網の整備 5-5 公共交通体系の整備 6-4 広域的な交流・連携の推進 12 施策	1-2 学校教育の充実 1-3 豊かな家庭づくりと青少年の育成 3-5-3 防犯対策の推進 4-6 おいしい水の安定供給 5-7 下水道の整備 5 施策
D領域（改善・見直し領域）	C領域（現状維持・見直し領域）
2-2 農林水産業の振興 2-4 観光の振興 4-3 循環型社会の形成 5-4 港湾の整備 5-6 情報通信基盤の整備・活用 6-1 地方分権への対応と基礎自治体としての基盤強化 6-2 地域活動と協働のまちづくりの推進 6-3 計画的で効率的な開かれた行財政運営の推進 8 施策	1-4 人権尊重と人間性豊かな人づくり 1-5 男女共同参画社会の形成 1-6 生涯学習の推進 1-7 スポーツ・レクリエーションの振興 3-3 障害者福祉の充実 3-5-4 消費者の行政の推進 4-1 歴史文化の保存・継承・活用 4-2 自然環境の保全・活用 4-4 住宅・住環境の整備 4-5 公園・緑地の整備 5-1 計画的な土地利用と市街地整備の推進 11 施策

(9) 概ね 10 年前との比較

概ね 10 年前と比較して良くなったか、悪くなったかをみると、基本施策では、「4-1 歴史文化の保存・継承・活用」で『良くなった』（「良くなった」＋「やや良くなった」）と回答した人が 47.4%で最も多くなっている。そのほか、「5-7 下水道の整備」（38.8%）、「4-6 おいしい水の安定供給」（35.3%）、「5-1 計画的な土地利用と市街地整備の推進」（34.7%）は『良くなった』が3分の1以上を占めている。

一方、「1-1 子育て環境の充実」では『悪くなった』（「悪くなった」＋「やや悪くなった」）と回答した人が 39.8%となっているほか、「2-3 商工業の振興」（36.9%）や「2-1 産業の担い手確保と雇用の場の充実」（24.7%）、2-2 農林水産業の振興」（21.1%）でも2割以上の人が『悪くなった』と回答している。

なお、「めざす目標」の指標として設定している 14 項目では、「4-2（ごみの減量や省エネ対策など）」（46.2%）、「3-2（高齢者が元気に活躍されている）」（34.8%）で『良くなっている』と回答した人が多くなっているが、「2-1（雇用対策）」（28.1%）、「5-5（鉄道（JR 呉線）の利便性に満足している）」（26.4%）では『悪くなっている』と回答した人が多くなっている。

図 概ね 10 年前との比較

N=914

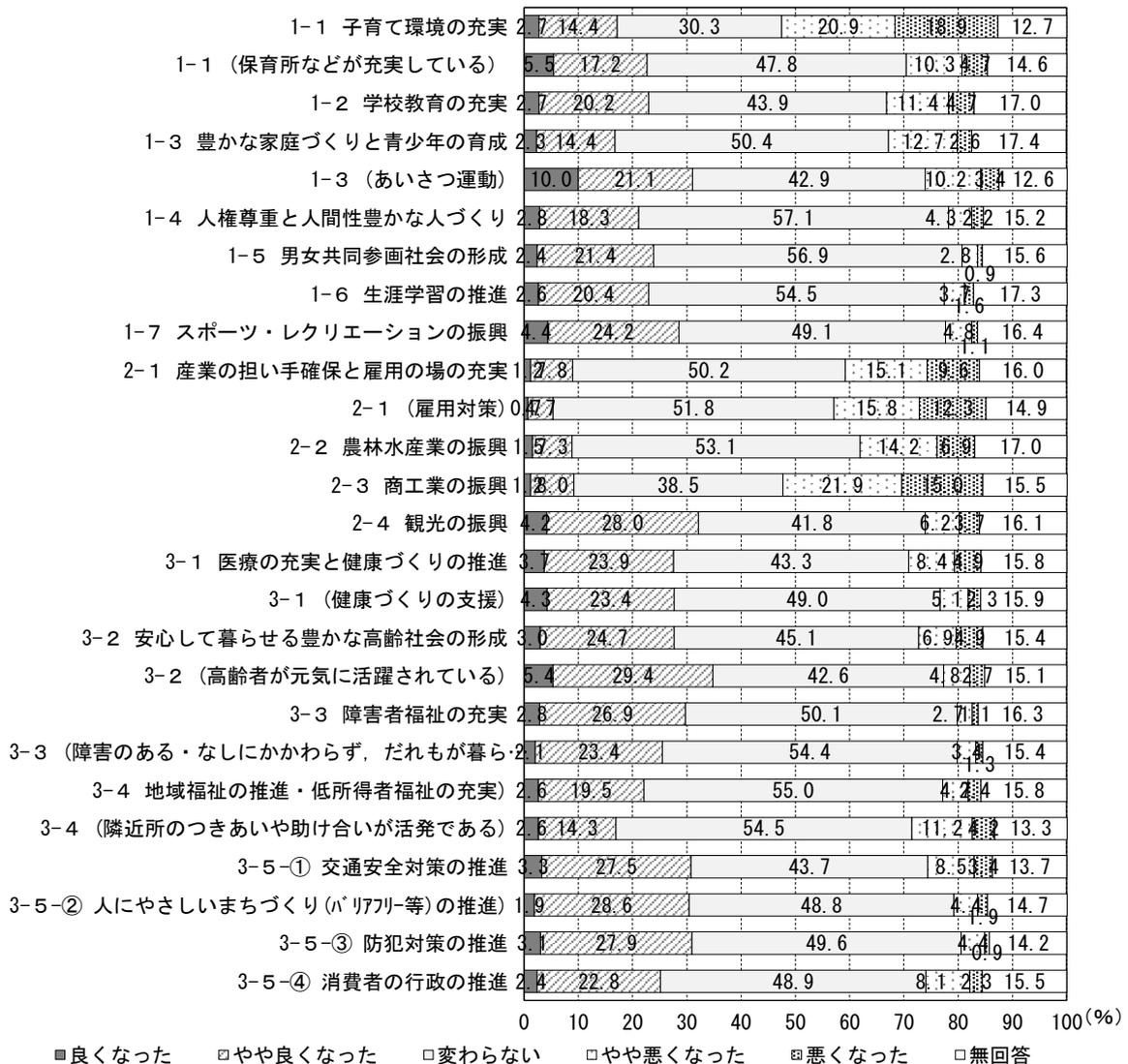


図 概ね 10 年前との比較 (つづき)

N=914

